

さわってみよう! やってみよう!

昆虫自然体験 むしむしくらぶ



イナゴのかくれんぼ〈左〉
トノサマバッタの卵に土をかける様子〈中〉
トンボめがね〈右〉

私たちは：

兵庫県を中心として各地で、子どもたちや家族を対象に昆虫との自然体験や観察のプログラムをしています。

活動の目的：

1. 子どもと家族に、感じる楽しさ、作る楽しさ、考える楽しさを味わう「昆虫との自然体験や観察」を行います。
2. 自然と私たちの持続的な暮らしを創造していただける人を育てます。

主な活動は：

- 昆虫自然体験・観察プログラムの実施。形態としては：
1. 公園等の野外での2時間のプログラム（対象昆虫は季節により異なります）
 2. 学校の教室等での2時間の室内プログラム



室内プログラムの様子

3. イベント等での簡単なゲームやクイズ、クラフト
4. 自然の中にどっぴりつかる宿泊を伴う「むしむしきゃんぷ」
5. 大人の方を対象に自然体験・観察プログラムの企画・実施するためのセミナー

活動の背景：

生態系の重要な役割を担い、また人間にとって最も身近にいる生き物のひとつでありながら、あまりふれあう機会のない昆虫たち。便利さに囲まれて実体験の機会を奪われがちな子どもたち、そして大人。この昆虫たちと出会う体験で、昆虫の不思議だけではなく、自然から学ぶことのすばらしさを実感することでしょう。

またこの体験によって、生きていく知恵を自然から授かることができること、人間が暮らしてい

くために自然と人間のバランスのある共生が大切であることを考えるきっかけになればと思います。



イベントの様子



むしむしきゃんぷの様子



セミナーの様子



屋外プログラムの様子

自然の中で虫たちといっしょに遊ぶ子どもたちだけでなく、子どもたちとの自然体験や自然観察に興味のある大人の方もぜひ一緒に活動に参加してください。いろんな発見があって、楽しく幸せになること間違い無しです。

虫の世界はいろんな面白いことがあります。たとえば、セミの羽化の様子やチョウが蜜を吸う様子を観察するのは大人気です。また、イナゴがかくれんぼをしているように稲の茎の周りを動く様子。トノサマバッタが土に卵を産んだ後に、猫のように土をかける様子。トンボめがねを作ってトンボの広い視野を体験する。このような体験で虫たちのことや自然の不思議をいろんな角度から知ることができます。

■連絡先

代表者 古賀督尉 TEL : 078-857-2909
〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3丁目1-10-2-212 FAX : 078-857-2909

■ホームページ <http://www.ricv.zaq.ne.jp/mushimushi/>

■E-Mail : kogat@ricv.zaq.ne.jp

■主な活動地名

県内各地

シダとコケを愛する人の集まりです。

しだとこけ談話会

「しだとこけの談話会」は、当時京都大学理学部におられた田川基二先生が、関西一円のナチュラルリストに対し、シダ植物について学ぶ機会を提供する形で始まりました。そのため、当初はシダ植物についての講義をしていただく場でしたが、のちにコケ植物についても話題が広がり現在に至ります。1950年（昭和25年）9月の第1回例会が大阪学芸大学天王寺分校で開かれ、その後60年にわたり活動を続けています。田川先生が亡くなられた後も、岩槻邦男先生・北川尚史先生を中心に会は発展し、現在までに開かれた例会・野外観察会は優に240回を超えています。生涯学習の、まさに先駆的な事例であると自負するところです。

田川先生の方針で、この会の参加者はただ講義を聞くだけではなく、自分で調べたことを例会の場で発表するようにと求められました。その伝統は現在にも引き継がれており、毎回の例会では会員が交代で自らの研究成果を発表しています。時には遠くから講師の方に来て頂き、なかなか聞く機会の少ない貴重



例会の様子（講師 北川尚史先生）

なお話をさせていただくこともあります。

とはいっても、いつも難しい話ばかりではなく、実はほとんどの会員のお目当ては、例会の後に必ず開かれる懇親会かもしれません。ここでは例会参加者同士の親交を深めるだけでなく、シダとコケについての、ありとあらゆる事柄が話題にのびます。

また、機関誌として「しだとこけ」が発行されています。「しだとこけ」は和文ながら力作ぞろいの原稿が掲載されており、かなり専門的でもありますが、市販の解説書や専門書が殆どない現状



イヌケホシダ〈左〉
タマゴケ〈中〉
Tylimanthus saccatus〈右〉

では、アマチュアにとって大いに参考になる内容となっています。また最新号「しだとこけ」16巻4号には、これまでの例会の記録とともに、しだとこけ談話会の詳しい紹介が掲載されています。



野外観察会の一コマ



観察会（宮崎）での記念撮影

- シダとコケに興味がある方の参加をお待ちしています。例会に参加されたい方、あるいは例会の開催日・内容をお知りになりたい方は、世話人あてにお問い合わせください。
- 談話会例会参加には入会金及び参加費用は不要です。ただし、自分ができる範囲で会の運営に協力をお願いします。また、会議室等の賃借料が必要な時は参加者で分担します。
- 機関誌「しだとこけ」の購入には実費が必要です。また送料節約のため、例会開催時に配布しています。最新号は16巻4号（2009年12月23日発行）です。バックナンバー等のお問い合わせについても、世話人までお願いします。

■連絡先

代表者 代表者：瀬戸 剛 世話人：道盛正樹

■ホームページ <http://homepage2.nifty.com/fern/danwakai/index.html>

■E-Mail : mossmichin2513@ninus.ocn.ne.jp

■主な活動地名

関西地区をおもな活動域として、シダ植物とコケ植物について相互勉強会ならびに観察会を開催。

- ・シダとコケについて一定の知見を持った人材を育成します。
- ・会報の発行等を通じて、シダとコケに関する情報を社会に広め自然に関する正しい認識に寄与します。

100年以上前から自然愛護に関心を寄せています

社団法人 日本山岳会関西支部

日本山岳会は100年以上前に誕生した、わが国最古の山岳団体です。その目的は、「山岳に関する研究、知識の普及および健全な登山指導、奨励をなし、あわせて会員相互の連絡懇親を図るとともに、登山を通じてあまねく体育、文化ならびに自然愛護の精神の高揚をはかること」を掲げています。

自然保護委員会が設置されており、全国で130

名以上のメンバーが中心となって、山岳の自然保護や生物多様性の維持に役立つ森づくりなどの活動を行っています。関西支部の活動は、六甲・東お多福山のスキ草原への復元作業への協働、六甲や北摂での自然観察会（アリマウマノズクサ、クリンソウなど実施）、兵庫県外ではやまみち巡視保全活動も実施しています。やまみちや休憩地のビューポイントには独特の生物多様性がみ



湧水の簡易水切り作業



クマ〈左〉
シカ〈右〉



路傍の笹や灌木の刈り払いで見やすくなった記念碑

られます。保全活動はそれにも役立っているものと思われます。

「山の日」の制定活動を中心になって進めており、また「山の野生鳥獣目撃リポート」の情報収集にも取り組んでいます。自然の生態系を守る生物多様性の維持活動の一助になればと存じます。

山で目撃した野生鳥獣の情報を集めています。検索サイトから「山の野生鳥獣」で検索して、問題となっているシカやイノシシ、カモシカ、クマ、サル、キツネ、ライチョウなどの情報を寄せてください。

東お多福山ではノウサギやイノシシを見かけました。

■連絡先

代表者 重廣恒夫（支部長）

〒537-0014 大阪府大阪市東成区大今里西2-5-12-205

■ホームページ <http://www.jackansai.com>

TEL : 06-6971-8067

FAX : 06-6971-8067

■主な活動地名

六甲・東お多福山

（大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、四国）

トリもヒトも自然のなかま

日本野鳥の会ひょうご



逆さまになって木を下りることができるゴジュウカラ (左)
稲美町のため池で暮らすパンの親子 (中)
水面に浮いているように見える巣に集うカイツブリの親子 (右)

当会は、財団法人日本野鳥の会と連携して、自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識およびその適正な保護思想を普及すると共に自然環境を保全し、地域の人々の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的として、以下の活動をおこなっています。



東播磨地域のため池で野鳥と植生を調査中

1. 自然保護の重要性や考え方の普及活動

会員および一般の方を対象とした探鳥会や展示会の開催と、他団体が実施する野鳥観察会等への講師派遣や展示会の開催をしています。探鳥会は年間約70回実施し、延べ約2800名の参加があります。

2. 野鳥および野鳥生息地の保護活動

野鳥の不法捕獲や不法飼養および野鳥の重要生息地保全に関して情報を収集し、関係機関への要望と機関からの要請に協力しています。



冬の明石市郊外での探鳥会風景

3. 兵庫県内の野鳥生息調査および研究活動

野鳥保護活動の科学的バックボーンとなる県内の野鳥生息調査や調査データの解析等を実施しています。兵庫県は全国最多のため池保有県で、そのため池には独特の自然環境がつくられてきているため、定期的に野鳥と植生の生息調査をしています。また、冬季に渡来するカモ類の全国一斉調査、氷ノ山、峰山高原、砥峰高原、六甲山、諭鶴羽山を対象とした森林・草原生息鳥類の定期調査等も実施しています。

4. 広報活動

会の活動報告や会員からの投稿を掲載した機関誌「コウノトリ」を年6回発行、およびインターネット上にホームページ開設し、活動を広報しています。

2010年6月現在、会員数は約1300名。出入り自由の気楽な団体です。一緒に野鳥を通して自然の奥深さに接してみませんか？



砥峰高原の草原に生息する鳥の鳴き声を確認



ブナの原生林で主に鳴き声による定点調査中

守りたい兵庫県の IBA、氷ノ山

IBA (Important Bird Areas 重要野鳥生息地) プログラムは、国際的な鳥類保護組織である BirdLife International が100ヶ国以上の加盟団体と共同実施している事業で、鳥類の重要な生息地を共通の基準で選定し、ネットワークとして世界全体で保全していこうというプログラムです。そのプログラムに参加している財団法人日本野鳥の会が選定した「日本のIBA」の中に、兵庫県では氷ノ山が選定されています。

当会では氷ノ山の坂ノ谷に鳥の生息調査コースを設定して、1993年から定期的に生息調査を実施しています。ここでは、繁殖期に県内の他の場所で見られる機会がすくないクロジ、マミジロ、コルリ、ゴジュウカラ等約50種ちかくの生息が確認されています。

しかし近年、多くなった山菜採りの人やシカによるブナ林の林床チシマザサの衰退や、外来種ソウシチョウの侵入による影響が心配されています。

■連絡先

代表者 奥野俊博

〒650-0027 兵庫県神戸市中央区中町通 2 丁目2-17
武田ビル 2F

TEL : 078-382-0489

FAX : 078-382-0489

■ホームページ <http://homepage1.nifty.com/wbsj-hyogo/>

■主な活動地名

兵庫県全域

クマとの共生が出来る社会づくりを目指して

東中国クマ集会



東中国クマ集会では、ツキノワグマの自動撮影を試みました。カメラとクマの回りには、DNAを取るヘアー・トラップが見えます

「東中国クマ集会」は、東中国山地においてツキノワグマの研究活動をおこなってきた研究者らの呼びかけを契機として結成されました。兵庫県のツキノワグマは絶滅危惧地域個体群でありながら、危険な動物であるとの認識から有害鳥獣駆除政策により駆除され続けてきました。こういった状況の中で、ツキノワグマの保護管理政策を根付かせるには、生息地住民の理解が重要であること、また冷静かつ客観的な科学的見地に基づいた保護管理が必要であるとの思いから、本会はその趣旨に賛同した研究者、地域住民、ナチュラリスト、学生らにより1996年に設立され、その年にシンポジウム「第1回東中国クマ集会」を開催、その後もシンポジウムを第5回まで行い、様々な現地の調査活動、教育普及活動を行っています。

活動内容としては、下記のような活動を行っています。



クマ生息地で、ツキノワグマを誘引する柿の実をもいで、クマの被害を防ぐ試みをしました

1. 適切な保護と管理を実践していくため、地域住民、狩猟者、他のNGO・NPO、研究者、行政などの協働の場を提供し、協働のコーディネートを行う。
2. 観察会やセミナー・シンポジウムなどの開催、機関誌（くまいるクラブ）発行（年間2回程度）、クマ学習会、柿もぎツアーなどによる普及啓発。
3. 自主研究会を通じた会員相互のスキルアップ。
4. 野生動物の生息状況や社会環境に関する調査研究。



クマ学習会をして、ツキノワグマ生息地の皆さんに、クマの説明や思わぬ被害の防ぎ方をお伝えしています

■連絡先

代表者 望月義勝

〒661-0046 兵庫県尼崎市常松1-13-3

TEL : 06-6433-1012

FAX : 06-6433-1012

■ホームページ <http://www.h5.dion.ne.jp/~minaguro/index.htm>

■E-Mail : black_bear@k9.dion.ne.jp

5. 適切な野生動物保護管理を実現するために必要な提言を行う。
6. その他適切な保護管理実現のため、市民の立場から必要な事業を実施する。

私たちは、ツキノワグマが生息する生息地域内住民と都市住民の間にはツキノワグマという野生動物およびその保護のあり方に対する考え方に、大きな隔たりがあることをアンケート調査で明らかにしました。ツキノワグマの保護管理政策を根付かせ、保護管理を進めるには、生息地住民の理解が重要です。そのため、現在はツキノワグマの生態に関する正しい知識とクマとの遭遇を避ける方法などを普及啓発する「クマ学習会」とい

う環境教育に力を注ぎ活動しています。こういった環境教育にご興味のある方は、是非お気軽にご連絡下さい。また時折、中国地域のキノワグマの生息地である兵庫県北部但馬地方、鳥取県や広島県へも調査に出かけています。フィールド経験は、環境教育においても重要な要素となります。自然が大好きな方、一緒に豊かな自然を体験しませんか。

東中国地域北部には、特に氷ノ山を中心とした豊かな生態系を育ててきた山々があり、ツキノワグマ、シカ、サル、イノシシ、など多くの野生動物が生息し、貴重な植物が残されている地域もあります。地元には、面々と引き継がれている伝統文化なども多く残されており、好奇心を刺激されます。フィールドサインを探したりする調査で疲れても、帰りにはいたるところに温泉もあり、疲れを癒されます。自然豊かな但馬の自然そのものが私たちのおすすめです！



ツキノワグマが生息する氷ノ山（兵庫県・鳥取県）の風景です

■主な活動地名

兵庫県、広島県、鳥取県

みんなで仲良く楽しくきのこの事を知ろう!

兵庫きのこ研究会

きのこについて皆さんどのくらい知っていますか?シメジ、エリンギ、マイタケ、シイタケ...スーパーには色々なきのこが出回っています。でもきのこの種類はそれだけではありません。自然の中に出るともっとたくさんのきのこが生えていることに気がつくでしょう。山や森だけではなく、庭や家の中といった身近なところできのこは発生しているのです。それらのきのこを調べて食べるのが好きな人、その美しさとらわれた人、図鑑で調べるのが好きな人・・・兵庫きのこ研究会はそんなきのこ好きたちの集まったグループです。

私たちが活動を行っているのは、主に六甲山系の再度公園です。六甲山は様々な植生を持つ緑深き山地であり、登山やハイキングなどでその自然に親しまれている方は多いと思います。実際に植物や動物、昆虫などについてはこれまでによく調べられています。しかし、六甲山に生えるきのこについてはまだあまり分かっていません。そこで私たちのグループでは毎月一度再度公園で定点観察会を行っています。きのこは「木の子」とも書けるように、発生する木と密接な関係があります。再度山付近には代表的な二次林であるアカマツ・コナラ林が主な林としてあり、少し歩くと自然植生であるシイ・カシ林も残っています。その他にもウメ林など色々な植生があり、里山の代表的なきのこを四季折々に見ることが出来ます。これまでに調べたきのこは会員たちでまとめ、「兵庫きのこ」という本として紹介されています。ホームページもあり、会員ではない方も書き込み



多い時期には台に乗り切らないほどのきのこが採れます

が出来ますのでお気軽にご参加ください (<http://www.hyogo-kinoko.jp/>)。

年中行事としては、春の「山菜の会」では会員の持ち寄った山菜と手料理を食べます。夏には「スライド発表会」があり、会員が一年に見たきのこの報告会を行います。一般的にきのこのシーズンといわれている秋には合宿と「きのこ鍋の会」を行い、いつもと違う場所に出かけてきのこを探し、みんなで分け合います。

現在、私たちの会は御影高校と協力して六甲山のきのこの標本作りを行ったり発生量の観測をデータ化したりしています。御影高校の皆さんに作っていただいたポスターは日本生態学会での高校生ポスター発表会で発表され、最優秀賞を受賞しました。きのこを調べる若い力も確実に育ってきています。

きのこの分類についてはまだ詳しい知見があり

■連絡先

代表者 湯本千秋

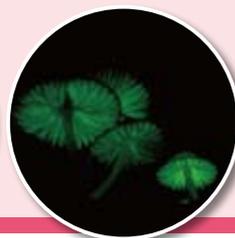
TEL : 078-743-5011

■ホームページ <http://www.hyogo-kinoko.jp/>

■E-Mail : <http://www.hyogo-kinoko.jp/modules/contact/>



ワカクサウラボニタケ



シイノトモシビダケ



カンゾウタケ

緑色が美しいきのこです<左>
暗いところで発光するきのこです<中>
主にシイ林に発生します<右>



みんな熱心に写真を撮ったりします

ません。六甲山だけで見ていると、名前が分からないきのこも多いです。つまり、誰でも新種発見者になれる可能性があるということです。また、生理や生態、栽培法についてもほとんど分かっていません。どの面から調べてもきのこに関しては新しい事実がたくさん見つかります。きのこの魅力は「わからないこと」。そう考えると、今まで何気なく食べていたきのこについて調べてみたくなりませんか?



動物は植物なしに生活することは出来ません。植物は動物の生活に必要な空気と栄養素を作り出しているからです。では植物の生活は?それを地面の下から支えている力、実はそれがきのこです。きのこは落ち葉や枝、死体などを分解して栄養素を作り、植物に渡すことが出来ます。また、菌根菌と呼ばれるきのこは植物の根の部分で植物と栄養をやり取りすることで生活しています。そのほか、冬虫夏草と呼ばれるものや植物病原菌と呼ばれるもののように、動物や植物と敵対関係にあるものもいます。きのこは色々な面で他の生き物と密接に関係しています。きのこを知ること、植物や動物についてもっと詳しくなることが出来ます。きのこなんて全然分からないという人や、食べるのが嫌いという人も大丈夫!みんなで仲良く楽しくきのこを知っていきましょう!



会員はみんな仲良しです

■主な活動地名

再度公園および
県内一円

植物の戸籍調べによって兵庫県の特徴を明らかに

兵庫県植物誌研究会

兵庫県には2500種ほどの高等植物が生育分布する。当研究会は20年前に兵庫県植物誌の編纂にむけ基礎データを集積することを目的につくられた。長年集積された標本にもとづき、兵庫県の植物目録が多くの努力と英知の結集により11年がかりで昨年完結した。これによって、県内のどこにどんな植物が生育するかの基本台帳は作られたわけだが、個々の植物の分布の特徴やどんな環境と結びついているのかなど、さらに調べてみたいこ



『キヨスミウツボの生活』の表紙（我国屈指の群落写真）



3年続けているハマアザミ保全地での個体群調査風景

とはたくさん残っており、遺伝的な情報は未知の分野である。こうして、生物多様性保全に向けた次なる探求が求められている。

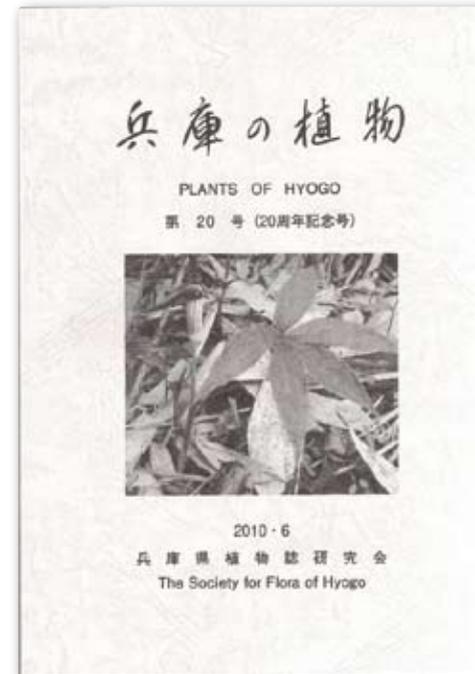
23年前、神戸市里山の一角でキヨスミウツボという寄生植物の我国でも屈指の大群落が見つかった。産業団地の計画地であることが判ったあと、群落の保全のためにキヨスミウツボの生態や生活史を調べる調査が行なわれた。10数年間で集積された数多くの知見は『キヨスミウツボの生活』として2006年に当研究会から出版された。

研究会は今年20周年を記念して会誌20号(p.258)を発行した。そこには実に多様な植物（ウスゲチョウジタデ、キンキヤマカンスゲ、キビシロタンポポ、サイコクイカリソウ、姫路城のタンポポ類など）が取り上げられ、ハマビシ、ベニバナヤマシャクヤク、クリンソウ、ハマアザ



植物画からキヨスミウツボの地中での特徴も知ることができる〈左〉
今では淡路市富島でしかみられなくなったハマビシ〈右〉

ミなどの保全のとりくみについても報告されている。植物分布や生物多様性の保全に感心のある方は下記まで問い合わせてください。



会誌20周年記念号には多様な植物を扱った25編の報文を掲載

キヨスミウツボ：液果をつけることや2倍体と4倍体があることなどが解明され、またウラジロマタタビの根に寄生させるといふ成果をあげた。その様子は保全地の一角にある「キヨスミウツボ公園」で観察できる（詳細は『キヨスミウツボの生活』参照；問い合わせ先は下記）。

ハマビシ：兵庫県内にただ1箇所残されていた自生地が海岸の開発で消滅しかかったが、機敏なとりくみによって浄化センターの一角に保全地を残すことができた。今後は自生地に近い生育環境を確保するとりくみが求められている（詳細は会誌20号を参照）。



キヨスミウツボ公園全景

■連絡先

代表者 小林禮樹
〒673-0865 兵庫県明石市大蔵谷清水583-36

TEL : 078-911-0034
FAX : 078-911-0034

■E-Mail : arminus@kpa.biglobe.ne.jp

■主な活動地名

植物相調査：兵庫県全域（氷ノ山から淡路の海岸まで）
保全活動：キヨスミウツボ群落の保全地・公園（神戸市西区押部谷町木見）、ハマビシの保全地（淡路市富島）、ハマアザミの保全地（洲本市由良町）など

生物・自然環境の研究調査を行い互いの親睦をはかる。 兵庫県生物学会

昭和22年に生物学の研究とその普及振興を目的とし、任意団体として創立しました。

現在は市民、高校生、学生、教員、専門家が集まって、生物・自然環境に関する研究・調査などを行い、知識の普及を図ると共に会員の親睦を図ることを目的に活動しています。

平成14年からは地域自然定点調査事業を開始しました。兵庫県下で5か所の地点を毎年、調査しています。甲子園浜、宝塚（山火事跡）、神戸藍那、姫路福泊海岸、氷ノ山古生沼を行っています。甲子園浜、姫路福泊海岸では毎年多くの高校生も参加して海岸植生の遷移や種類について楽しみながら学んでいます。

昭和23年から機関紙「兵庫生物」を毎年一号ずつ発行しています。会員個人の研究や調査結果はもちろんのこと、上記の地域自然定点調査についても掲載しています。

総会では生物の興味深い話を聞く講演会も実施しています。

毎年、高校生・会員の研究発表会を開いて、互いの親睦をはかっています。

ほぼ5年に一度の割合で記念誌を発行して、兵庫県下の自然についての知識普及に努めています。

県下の地域ごとに7支部を設けています。支部ごとでも研修会や調査活動を進めています。



福泊での調査活動。高校生も大勢参加しています。

毎年4回の割合で生物ニュースを発行して、総会や理事・役員会での内容報告を行っています。その他、県下の地域ごとに行う調査や研修会の案内、本部の行う事業の案内、会員の活躍の紹介も掲載しています。

21年度と22年度は西日本タンポポ調査、兵庫県カタツムリ調査も調査団体の一員として積極的に行いました。

甲子園浜、姫路福泊海岸は広く、大勢が集まれる場所です。

砂だけだった姫路福泊海岸は現在、コウボウムギやコウボウシバ、ハマヒルガオ、オカヒジキ、ハマボウフウなどの海岸植物があります。



いろいろな生き物を調べています：
海の甲殻類 ワケカラ <左>
六甲山に多いアリマウマノスクサ <中>
全県調査で見つかったコハクオ ナジマイマイ <右>

植物もほとんどなかった甲子園浜も コウボウシバ、ハマゴウなどが観察できるようになりました。



ハマゴウの花



春霞に煙る六甲の山を望む甲子園浜。ハマゴウが根付いている。

兵庫県の最高峰氷ノ山のブナ原生林は自然の偉大さ、豊かさを感じられる場所です。白い雪、青い空とのコントラストは新緑のブナを引き立てます。

この氷ノ山の頂上近くの古生沼には、ヤチスゲなど氷河期の生き残りといえる植物が生えていて、兵庫県生物学会は定点調査を毎年行っています。

氷ノ山のブナ原生林
(自然の偉大さ、豊かさを感じられる場所)



■連絡先

代表者 武田義明 TEL : 078-803-7753
〒657-0011 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-1 神戸大学発達科学部 FAX : 078-803-7761
武田研究室 兵庫県生物学会本部事務局

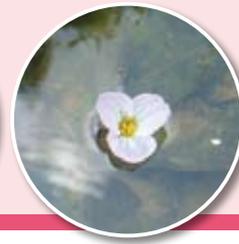
■ホームページ <http://phytosoc.h.kobe-u.ac.jp/~hyogobio/>

■主な活動地名

甲子園浜、宝塚（山火事跡）、神戸 藍那、姫路 福泊海岸、氷ノ山古生沼

県内の植物に親しみ特徴を知り自然を後世に残していく

兵庫植物同好会



ミズギボウシ〈左〉
ミスオオバコ〈中〉
コヤスノキ〈右〉

会員は約 120 人。毎年 1 月末の日曜日に総会を開く。毎回 30～40 人の出席の様子。

午前 10 時より 2 人の会員発表、近頃は多くはパソコンでの発表が多い。題は六甲山の植物、猪名川の植物、その他、種々であるが、自分の得意場所、得意分野の発表となる。12 時頃より総会となる。昨年度の観察会の反省、主な珍品などの話題が出る。続いて会計報告、今年度の 4～11 月（年 8 回）の観察会の案内人と場所（できるだけ全県になるように）の決定。昼食会、2 時間、他から講師をまねいての講演。あと質疑応答、その後、懇親会が 1 時間程度。この雑談が案外重要で、あの湿地は近頃どうだとか、いろいろ自然の変化などの話が出てくる。いわゆる情報交換の時となり、そこへ気のあった人だけで調べにいく約束などがされる。後でのべる王子ヶ池のうめ立て天保池などの話しもそういう時にできた話しである。

絶滅危惧種といっても、それだけが生えているわけではないから、普通種もある程度知っていない



ミスオオバコの果実

と保護できない。会員は森林インストラクター、自然保護指導員、その他となるが前 2 者が約半数をしめる。この人達も講習会を受けるようだが、それだけではとうてい自然の学習は不十分である。この会は今年 4 月で 318 回をむかえたが、年 8 回実施しているので 40 年間継続していることになる。毎回 20～40 人の参加だが、会員が友だちをつれて参加して下さる場合も多い。

観察地は県内、ただ貴重種の多い所はさけるように気をつけている。それは当日採らなくても後日採りにくくもあるから用心の為である。

また貴重な植物（トキソウやサギソウなど）や昆虫（例えばハッチョウトンボ）のいる湿地が埋め立てられたり、自然がこわされかかった際、ここ最近も 2 例あるが、社町の王子ヶ池が一部埋め立てられた。神戸市の天保池がヘリコプター発着地にうめ立てられた。このような際、社町役場や神戸市

に意見をいった。役所の人もいいかげんなアセスをして工事を許可することも多い。

貴重種は「採るな」「貴重なものだ」と看板を立てるとよけいに採る人がいる。観察会の記録でも珍品をあげたいが、それを読んでねらう人もいるから記事一つでも注意が必要となる。六甲山のサギソウのようにがんじょうな垣をつくる必要があるかもしれない。また博物館などでもその地方の貴重種はもっと熱心に管理して絶滅してしまわない努力が問われている。この 10～20 年間でも植物は勿論昆虫も県内から相当数、姿を消した。本県には「水辺のネットワーク」という会もある位、池や湿地が多く、その土手などには貴重な植物が多い。思いつくままに順不同であげてみると、

（双子葉植物）ミズトラノオ、アイナエ、ヒメナエ、ノウルシ、アズマツメクサ、オギノツメ、ミシマサイコ、ヌマゼリ、ヒメビシ、オニバス、ヒキノカサ（単子葉植物）カガシラ、ミカワシンジュガヤ、シズイ、モロコシガヤ、ウンヌケ、ヒナザサ、オニスゲ、ウマスゲ、ユバノトンボソウ、カキラン、サギソウ、トキソウ、ヤマトキソウ

このようなものは人間が油断をすると消えてしまう環境の変化に弱いものばかりである。それだけ人間が守ってやらなければならない植物といえる。

自然保護指導員や森林インストラクターの人たちの実力を高める必要性を感じます。その人たちに植物や自然のしくみなどをより勉強してもらおう大切さを思います。



オオバウマノスズクサの説明を聞く



キヨスミウツボ



溪谷にて



エビヅルの前で説明

■連絡先

代表者 矢内正弘

〒 676-0082 兵庫県高砂市曾根町 2384-9 畑中様方

TEL : 079-448-1728

FAX : 079-448-1728

■主な活動地名

兵庫県全域

兵庫県下のため池や湿地などの水辺環境の保全を目指しています。

兵庫・水辺ネットワーク

兵庫・水辺ネットワークは、兵庫県下の水辺の自然環境の荒廃・悪化に危機感を持った研究者や自然愛好家を中心となって、1996年に設立されました。現在の会員数は150名です。このネットワークの特徴は、水辺で活動する様々な分野の人たちが、参加していることです。水生昆虫の専門家もいれば、水草の研究者もいるといった具合です。水辺環境をトータルでとらえて、その保全を目指すのが当ネットワークの大きな目標です。

そのような保全活動の中で、最も気を使っているのが、地元の方々の理解を得ること、関係する行政機関に保全策を提言しつつ良好な関係を保つことです。これまでにアサザ、オニバス、カワバタモロコシの保全活動などで、大きな実績をあげることができました。近年侵入が目立ち、我が国固有の生態系に甚大な影響を与えている外来生物の駆除活動にも力を入れています。



オニバスの有数の産地である明石市での保全活動



遷移が進みつつある加古川市の湿地で再生活動を継続的に実施

会の活動としては、年6回の会報「水辺」の発行と年6回のフィールドワークを開催しています。また、保全のために人手が必要な活動があれば、随時会員に参加・協力を呼び掛けています。毎年4月には総会と各地で活躍するゲストを招いて交流会を開催しています。この交流会はだれでも参加できるため、行政機関の担当者なども多数参加し、なごやかに意見交換を行っていることが大きな特徴となっています。

悩みとしては、活動の中心的な役割を担う会員が定年又は定年間近かの年齢となり、世代交代がうまくできていないことです。農業高校の生徒さんなども、活動に積極的に参加してくれていますので、気長に若手の育成を図っていくことが重要だと考えています。

生きものあふれる水辺の素晴らしさを次の世代に継承するため、地元住民や行政の方々と一緒に、保全を図っていきたくと考えています。



平地の皿池に生育するオニバスはため池保全のシンボルとなっている〈左〉
カワバタモロコシは県下に約20カ所の生息地が残されており、保全活動を続けている〈中〉
神戸市西区の田園地帯に生息するナゴヤダルマガエル〈右〉

兵庫県には、その数4万カ所を越えるため池が立地しています。ため池は人間が灌漑用に築いた貯水施設ですが、全国的に水辺環境の破壊が進む中で、貴重な水辺空間を提供してくれています。そこは水生生物の重要な生息・生育場所となっているほか、手入れされた堤体は草地植物の大切な生活場所ともなっています。多くの絶滅危惧種がため池を最後の砦として暮らしていることがわかってきました。私たちは、自然環境から見たため池保全の大切さを機会があることにアピールしています。

また、湧水湿地が県下に多数見られるのも、兵庫県の大きな特徴です。タタミ1畳ほどの小さなものから、野球場ほどの大規模なものまで、様々なタイプのもがあり、湿地の実態把握とその保全も急務だと考えています。

兵庫県には、生物多様性の高いため池がたくさんあります、この素晴らしい止水環境を是非見に来てください



圃場整備前の湿田からのヒメタイコウチの救出



アサザの生育を妨げるチクゴスズメノヒエの駆除作業



但馬地方にある六方川での生物調査

■連絡先

代表者 代表幹事 角野康郎
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学理学部生物学科 角野研究室気付

TEL : 078-803-5719
FAX : 078-803-5719

■主な活動地名

兵庫県下全域

■ E-Mail : kadono@kobe-u.ac.jp

森を守り、育てる活動に参加しませんか

NPO法人 ひょうご森の倶楽部

全国的に、市民の手で荒廃した森を保全しようとする、いわゆる「森林ボランティア活動」を行う団体がたくさん生まれており、兵庫県内でも多くの団体がありますが、当倶楽部の特色のひとつは、淡路島を除く兵庫県の全域に活動地があり、その数は21活動地（H22. 6月現在）にのぼることと、これに合わせて会員も全県にわたっていることです。活動地によって人工林、里山林、竹林、あるいはこれらの組み合わせがあり、各活動地が週末を中心に定期的に活動していますので、会員はそれぞれの目的と都合に合わせていろいろな活動に参加することが可能です。

活動内容は活動地によって様々ですが、いずれの活動地も基本的な整備目標は「明るい森」＝「生物が多様な森」の再生であり、それぞれが「森を楽しむ」活動も取り入れながら、活発に活動して



里山林の除伐作業

います。

また、もうひとつの特色は、森林ボランティア団体としては県内では歴史が長く（設立：平成8年度）、会員数も多い（約600人：H22. 6現在）ことから、新しく活動を始める団体等から指導要請をいただくことも多く、森で活動する仲間を増やすためにこれに積極的に応えていることです。

兵庫県が毎年実施している「森林ボランティア講座」の企画・運営、現地指導を平成17年度から毎年引き受けているほか、市町や団体が行う講座、研修会等にも指導スタッフを派遣しています。

さらに、ここ数年は「企業の森づくり」が増え、これらの企業からも要請をいただいて森づくりの企画や作業の技術指導などに協力しています。

私たちは森林の様々な働きによって生かされていると言っても過言ではありません。緑の中でい



ヒノキ林の間伐作業



コバノミツバツツジ〈左〉
台場クヌギ〈中〉
整備した竹林〈右〉

い汗をかくことで豊かな森林を守り、育てることにつながる私たちの活動に、是非あなたも参加してください。



活動地（●が活動地：H22.6現在）

放置されていた森を手入れするとこんな素敵な生き物、風景に出会えます。

- ・コバノミツバツツジ
林内に光が入ると木々が花を咲かせます。
- ・台場クヌギ
ブッシュを伐り払うと現れてくる台場クヌギは感動もの。
- ・竹林
25mの緑の垂直線を見ると気持ちも真っ直ぐします。

■連絡先

代表者 福田 正

〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通4-1-11
山手ユージハウス201号

TEL : 078-321-0049

FAX : 078-321-0049

■ホームページ <http://www.hyogo-moriclub.sakura.ne.jp>

■E-Mail : moriclub@pearl.ocn.ne.jp

■主な活動地名

兵庫県の全域

（養父市吉井、養父市八鹿町三谷、朝来市さのう、赤穂市西有年、たつの市広山、たつの市福田、市川町下牛尾、多可町八千代区楊柳寺、多可町中区奥中、丹波市市島町梶原、丹波市氷上町向山、篠山市遠方・桑原、猪名川町柏原、川西市黒川、三木市垂穂、加古川市弁財天山、加古川市行常、三木市三木山、神戸市太子の森、神戸市布引・世継山、神戸市君影小学校学校林